

(2) 現計画の検証

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
環境共生 ※に向けた総合的な取り組み	ソーラー資源の活用	平成 26 年度は、太陽光発電システムモニター事業の申込みは 20 件中約半数の申込みとなっているが、25 年度以前については順調に件数が伸びている。	平成 26 年度は、前年度に消費税増税による駆け込み需要が多かったことと。パネルが雪により冬期間に発電しないなどの理由により設置件数の落ち込みがある。	電気代の増加等、ソーラー資源の活用が見込まれる、継続して推進したい。
	地域新エネルギービジョンの推進	公共施設への林地残材を活用した木質燃焼装置の導入や一般家庭・事務所への木質ペレットストーブの普及宣伝を行い、木質バイオマスボイラー2箇所、木質ペレットストーブ 45 台が設置されている。 太陽光発電システム設置モニター、BDF※燃料製造・走行テストなど新エネルギービジョンのCO2削減目標について全体として達成できている。	木質ペレットストーブのメンテナンス等の手間が要因で普及が進まない状況である。	平成 26 年度から木質ペレットストーブ導入補助金の補助率等を上げ価格差の解消を図ったが、メンテナンス等に課題があることから、普及には時間がかかるものとする。 道事業の再生可能エネルギー等導入推進事業のモデル地域の選定を受け「低炭素地域づくり提案書」の作成を受け新エネルギービジョンの改訂に結び付ける。
	新エネルギーに関する大学研究機関との共同研究	新エネルギー導入推進委員会の委員に北見工大学の副学長に委嘱している。	特になし	新エネルギー導入推進委員会による研究項目の選定により、工大など大学との研究を進める。

※環境共生：人間も生態系の一部であることをふまえ、環境への負荷をなるべく減らして生活をしていくこと。

※BDF：バイオディーゼルフューエルの略で、生物由来の油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称。

(3) 意見、提案

☺ : 小学生 ♂ : 中高生 ♀ : 育児ママ ♀ : 自衛隊 ♂ : 高齢者 ● : 町民 ○ : 職員

- 他の自治体など、エネルギー対策における施策（自然エネルギー発電施設など）多く取り上げられているなかで、美幌町は民間企業のメガソーラーなどはあるが、町としての設備ももっと増やしていくべき
- 町内の資源を生かし、小水力発電やカーボンオフセット等のエネルギーや資源を生かす取り組みがなされているが、町外・道外で実施予定の再エネ事業等（がんばれ日本的な取り組みに対して実施）売電等により利益の出る事業に出資しその益を基金として町づくりに還元する。（道北や四国で風力発電設備建設の予定あり）
- 自然エネルギーを活用するエコタウンとなる。エネルギーを化石燃料に頼っているため原油の価格の影響を受けてしまっている。活用していない自然エネルギーはたくさんあると思われる。
- 太陽光、バイオマス、小水力の推進、普及活動。小水力については発電量が少ないので、長期的に施設拡大を図るべきではないか。